

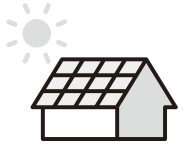
お問い合わせ 企画政策課 ☎23-9511

日高川町地球温暖化防止実行計画 (区域施策編) を策定しました!

町では令和3年11月29日にゼロカーボンシティ宣言を行っています。2050年二酸化炭素実質排出ゼロの実現に向け、この度、町域の温室効果ガス排出量の削減について定める「日高川町地球温暖化防止実行計画(区域施策編)」を策定しました。一人ひとりができることから取組みをはじめましょう!

温室効果ガス排出削減等に関する対策施策

町、事業者の皆様、町民の皆様に期待される対策は次のとおりです。



1. 太陽光発電の普及

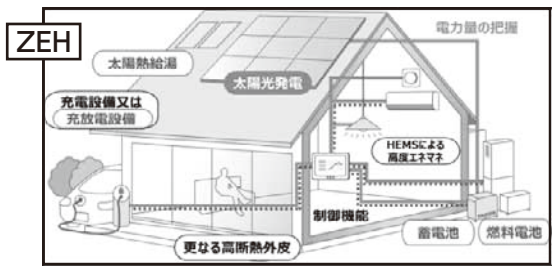
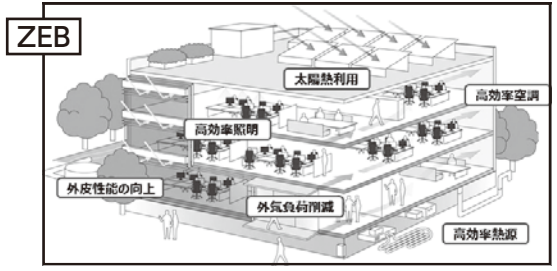
- 住居等の建物屋根、未利用地、農地への太陽光発電の導入を図ります。
- 将来的には町の公共施設の100%、戸建て住宅の大部分に太陽光発電が導入されていることを目指します。
- 町の避難所については太陽光発電および蓄電池を整備し、再エネ導入と防災機能強化を図ります。

2. 省エネ促進

- 照明のLED化、EMS(エネルギーマネジメントシステム)導入、省エネ機器への買い替えを積極的に図ります。
- 将来的にはLED照明が100%になっていること、省エネ機器の選択、EMSが一般的になっていることを目指します。

3. 建物・住宅の脱炭素化

- 断熱性能の強化、再エネ導入と合わせたZEB・ZEH化を実現することで、建物・住宅の脱炭素化を目指します。
- 将来的には公共施設や住居の新築において、ZEB・ZEH化が一般的となっており、既存のものについては更新・改築時に省エネ性能を向上させることを目指します。



出典：資源エネルギー庁 省エネポータルサイト

4. 交通の脱炭素化

- 自動車の買い替え時には、ハイブリッド車、EVを選択します。将来的にはEV、FCVに移行します。
- 公共交通機関の利用、自転車、電動アシスト付き自転車の利用を促進します。

5. 木質バイオマスの活用

- 町内の施設において、木質バイオマスボイラー・ストーブの導入を促進します。
- 将来的には暖房や給湯に木質バイオマスボイラー・ストーブが広く実装されていること、木質バイオマス発電が地域のエネルギー地産地消に貢献することを目指します。
- 町内林業事業者等と連携し、木質バイオマス燃料供給体制の構築を目指します。

6. 森林吸収・木材利用の促進

- 森林経営活動(間伐・植栽等)の活性化を図り、温室効果ガスの森林吸収を促進します。
- 森林吸収による削減量を排出量取引で売却し、林業の新たな収入源とすることで地域振興を図ります。
- 公共施設での利用を含め、町内での木材利用促進を図ります。

7. ライフスタイルの見直し

- クールビズ、リモートワーク、ごみの減量(リサイクル、過剰包装の廃止等)など、ライフスタイルの見直しを図ります。



地球温暖化とは

地球温暖化とは、人為的に「温室効果ガス」が大気中に大量に放出され、地球全体の平均気温が急激に上がり始めている現象です。以下のような影響が懸念されています。

- 気候メカニズムの変化による豪雨や猛暑等の異常気象が頻発、災害の激甚化
- 海水の膨張や氷河などの融解による海面上昇、砂浜・干潟消失
- 気候変動や水不足による食料生産への影響
- 生態系への影響
- 熱中症、ヒトスジシマカが媒介する感染症の増加等の懸念



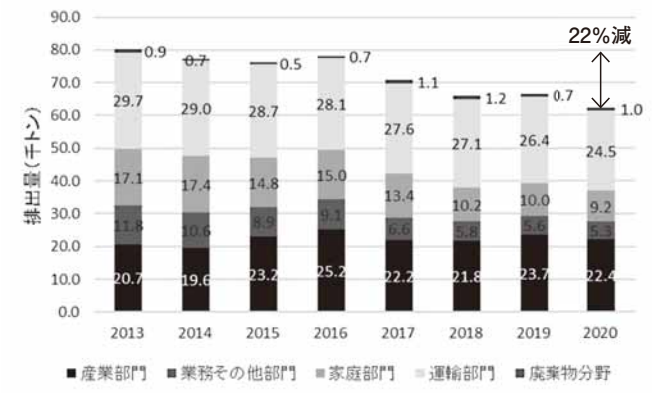
温室効果ガスとは

地球から出る熱を大気中に保つ働きをもったガスの総称です。温室効果ガスには、二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン等があり、最も多いのが二酸化炭素となっています。

現状の町の温室効果ガス排出量

町の温室効果ガス排出量は2013年度で80.2千トン、2020年度で62.4千トンとなっており、7年間で約22%の減少(2013年度比)となっています。

排出量の割合としては、部門別では運輸部門が最も多く、次いで産業部門、家庭部門の順になっています。

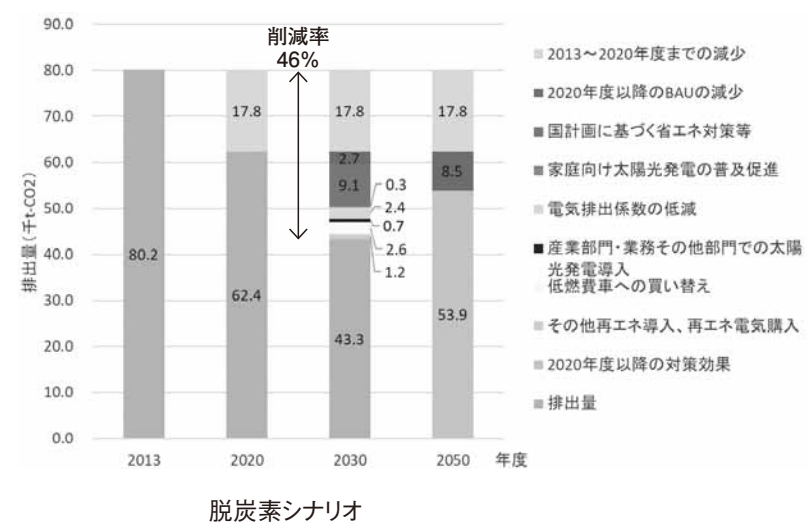


町の目標

中期目標(2030年度)：温室効果ガス排出量46%削減(基準年2013年度)

長期目標(2050年度)：森林吸収を含めてカーボンニュートラル

さらにカーボンマイナスを目指す



省エネ対策や太陽光発電、低燃費車の普及促進等を行い、2030年度までに温室効果ガス排出量46%削減(2013年度比)を目指します。

2050年には、森林吸収を含めて「カーボンニュートラル」、さらには「カーボンマイナス」を実現することを目指します。

カーボンニュートラルとは

温室効果ガスの排出量と吸収量のバランスをとって、温室効果ガス排出量を実質ゼロとすることをいいます。